

角野公民館 だより



ためになる ことば シリーズ

何につけても「しかたがない」という人間ほどしかたのない人間はいない。とは下村湖人のことば。全くその通り！とうなずけるのだが、ともするとついつい「しかたがない」という理屈を付けて逃げ出したりはしていないだろうか、反省しきりである。
M. S

成人の日を迎えられた皆さん、 おめでとうございます！！

今年、角野校区の男性63名、女性61名、合計124名が成人の仲間入りをされました。今後のご活躍を期待します。

「成人式を迎えて」 渡部 心

去年まで成人式に関するニュースを遠い話のように見ていたが今年は違い、自分が成人することの意味を改めて考えた。

成人式の実感を得たのは、案内ハガキが来た時点ではなく、成人式会場で友人と再会したときであった。会場では友人たちと近況報告や昔話で盛り上がり、とても楽しい時間を過ごした。成人式を終え、またの再会を約束し家へと帰ったところで前記の話となる。

ありきたりだが、成人したからには自分の行動に責任を持ちたいと思う。そのためには意思を強く持つことが重要である。しかし決して頑固にならず、柔軟な心も忘れずに持ち続けていきたい。

「成人式を迎えて」 三木 彩香

会場に着くと、すでにたくさんの成人が集まっていた。どこかで見たことのある顔がたくさん。久しぶりの再会である。子供のころ泥だらけになって遊んだ友達が、振袖を着たり化粧をしたりしているのを見るのはなんだか不思議な気持ちであった。友達を見つけて声をかける。みためは変わっていても中身は変わっていない。もちろんお互い少しは大人になったのだろうが。友達や恩師の声、子供のころを思い出させる。

一人暮らしをし始めてから、たまに子供のころに戻りたいと感じるときがある。それは今が辛いからとかではなく、今だって本当に幸せで、でも新居浜での子供時代が愛おしくて仕方がないからだ。子供のときにも悩みはあった。でも20歳になった今、そうやって悩んだ日々さえも懐かしい。子供時代を通り過ぎた今だから、そう感じるのだろう。

自分が立派な大人になれるのか。そもそもどこからが大人なのか。まだまだわからないことばかりだ。ただ1つ言えるのは、私が将来結婚して子供ができれば、20歳になったときに振り返って愛おしく思えるような子供時代を過ごさせてあげたい。

今も新居浜では、子供たちが一生懸命走りまわって遊んでいるだろうか。



始業式に合わせて、1月8日（金）に、角野公民館にて「七草がゆ」を行いました。

七草がゆを食べたよ！！

角野保育園や角野小学校の子どもたちがたくさん参加してくれました。



角野公民館生涯学習講座合同セミナー 『閉講式記念講演』のお知らせ

- ◇ 講演 「立春に題する」
- ◇ 講師 檜崎 通元 老師（瑞応寺住職）
- ◇ と き 平成22年2月4日（木）
午前10時～11時30分
- ◇ ところ 角野公民館2階大会議室

多数の皆様のご来場をお待ち申し上げます。

2月の行事予定

3日（水）	食生活改善推進協議会活動日	8:30～14:00
〃	老人クラブ役員会	9:30～12:00
〃	角野分館おはなし会（幼児対象）	15:30～16:00
4日（木）	食生活改善推進協議会活動日	8:30～14:00
〃	閉講式記念講演 合同セミナー	10:00～11:30
6日（土）	老人クラブ会長会	9:30～12:00
16日（火）	民生児童委員会	19:00～21:00
17日（水）	角野分館おはなし会（幼児対象）	14:00～14:30
27日（土）	老人クラブ女性部踊り教室	13:00～15:00

角野校区の人口と世帯（平成21年12月末日現在）

・人口	12,322	人	(+5)
・男	5,83	人	(+6)
・女	6,49	人	(-1)
・世帯	5,408	世帯	(-4)
	()	内は3か月前との比較	

語り継ごう 『角野公民館元館長 横川 静氏遺稿より』

『抑留生活』 - その⑬ -

※記録された時代が不明ですので、集計や報告の数字は現在と一致しない点や誤字はご容赦ください。

～前号からのつづき～

いよいよ、準備が出来た班から集合して人員点呼をして出発する。正門では看視兵による点呼がある、朝の寒い時間に待ち時間が長い。前にも書いたが頭の悪い看視兵に当たると4列縦隊10列の40名の点呼が出来ない、何回やってもその度計算が違うので最後は大豆を持ってきて一粒で計算だ、1時間近く掛かることもあり、足元が冷えて凍傷になりかけることが月に何回もある、次第に皆がその看視兵を避けるようになり、問題が起こって看視兵は交替させられた。

点呼が遅れて出発すると収容所から一番遠い伐採地に行くことになり、先発より1時間遅れて作業を始め、伐採場所も悪く、作業時間が極端に短く目標の「ノルマ」はなかなか達成できなくて時間外労働を強要される。日没は極端

に冷え込んで、昼食の12割の黒パンと50割のシャケでは腹が減って体力が持たない、それでも「ノルマ」が達成出来なければ帰ることが出来ない「朝は朝星、夜は夜星」で働くのである。

夏の間は頑張っても冬ともなれば、日没後の冷え込みは零下20度にもなる、二人一組の作業も栄養失調の二人では時間内に完了することが出来ず、「最終時限九時」には看視兵もたまりかねて帰隊を進める。でも日中の重労働と空腹では歩きかねる、足がもつれて倒れる、看視兵も早く帰りたいので、拳銃の先で身体をつつく。作業後の同僚は疲れで、息を整えながら起きあがるまでには時間がかかる、それでも同僚は友達に迷惑をかけまいと、気力を奮い立たせて立ち上がる。やっとの思いで立ち上がった者に「グバイ、グバイ(早く早く)」と追い立てる、なかなか前には進めない。兵舎に着くまでには30～50分歩かなければならない。腹は減るし体力が無く、途中で何回も倒れて其れを同僚が助け起こす、励ましながらか歩くが体力の限界である。今まで話していた友が倒れると同時に「息」を引き取った。看視兵も仕方なく、其処にある丸木を二本用意して倒れた兵を乗せると、同僚の「バンド」を取り、縄を探してきて引っ張り始める。

～次号へつづく～

(記・広報部 谷屋)

「小さな親切」実行章を受章！！

～ 思いやりの溢れるあたたかな社会づくりをめざして ～
民話の里・すみの 直野 真寿美



※賞状は、公民館入口の予定表案内板の上側に飾ってあります。

昨年12月18日、伊予銀行角野支店において「小さな親切」運動愛媛県本部代表麻生俊介氏より、私達、民話の里・すみの活動「地域の民話・伝説の語り伝えを通し、情操教育及び郷土愛の育成を目的として設立されたボランティア団体。昔話の中から優しさや命の尊さ、豊かな心を育み、ふるさとに愛着を持って欲しいとの思いで活動している。角野分館にて、毎月第3水曜日のおはなし会、角野小学校で毎水曜日に朝10分の読み聞かせ、敬老会、各種イベント等参加・・・」以上の理由にて、受章し賞状をいただきました。

これからも、皆様のご協力、ご理解のもと、世代を超えたコミュニケーションの輪が広がってゆく様、会員一同頑張りたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

角野中学校 2年生 西谷 龍之介

少年式は僕たちが今までより成長し、より大人へと近づいたことを認められる式です。僕たちは少年式を迎えて、決意を新たに、より成長できるようにしたいと思っています。

少年式は誰でも時間さえ過ぎれば迎えることはできます。しかし、少年式を迎えるにあたってどのような心構えで迎えるかどうかで、その人の少年式に対する意味が変わってきます。

少年式を迎えると、自分にかかる責任も変わります。今までと同じようにしていたのではいけません。自分を変え、より大人へならなければいけません。少年式は、人生の折目、節目なのです。

少年式を迎えても、僕たちはまだまだ未熟なヒヨコです。大人とは比べものになりません。これからも地域の人に迷惑をかけると思っています。だから僕たちはその人たちに感謝することを忘れないようにし、守ってくれている人たちに応えていきたいと思っています。

少年式を迎えて

角野中学校 2年生 岡林 紗耶

今僕たちがこうして、無事に少年式を迎える事ができるのは、両親をはじめ、地域の方々、先生方などたくさんの方に支えられ、守って頂いたからだと思っています。

少年式を迎えるにあたり、私は一つの目標をたてました。それは、「自立する」という事です。人に頼っていた自分を見つめ直し、何事にもあきらめない精神を強く持ちたいです。そして、誰かが困っていると、支えてあげられるような優しい心を、持っていたいと思っています。

この少年式は、大人に成長していくための一つのステップです。これから先、たくさん壁にぶつかると思いますが、私たちを見守って下さる方のためにも、あきらめずに乗り越えていきたいです。

※少年式とは、「立春の日(2月4日)」を「少年の日」として、14歳を迎えた中学2年生を祝福し激励する行事です。